

社団法人 私立大学情報教育協会
サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成21年度 第1回生物学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 平成21年6月12日（金）10:30～12:30

場所 私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者

秋山、伊藤、須田 各委員 （事務局 井端、森下、平田）

III. 検討内容

今回は、昨年度まとめた学士力（中間報告）の見直しを行い、最終的な学士力のまとめを行った。分量は中間報告とおおよそ同じ程度とし、中間報告修正版を基に以下のとおり、文言や順序をさらに修正した。また、具体的にイメージしやすいよう、生物学的な視点での解説も適宜追加した。

<学士力最終まとめ>

ゴシック体は今回の修正版。 ※印は解説。

1. 知識・理解

(1) 生命の本質や生物の基本単位である細胞の構造と機能およびそれらを支える遺伝子とそこから導き出される生体分子の働きなどを理解できる。

(1) 生命の基本単位の細胞の構造及び遺伝子や生体成分の機能などの知識を得ることから生命の本質を理解できる。

※個体の生命活動を理解する。

(2) 生命誕生以来の長い進化の歴史の中で獲得された生物の共通性と多様性を理解できる。

(2) 生命の歴史の中で獲得された生物の共通性（普遍性）と多様性を理解できる。

※個々の生物種の特質を理解し、それらの類似点と相違点を理解する。

(3) 生態系の機能と構造が理解できる。

(3) 生態系の機能と構造が理解できる。（変わらず）

※生物群集を理解するとともに、非生物（無機）環境との相互関係を理解する。

2. 汎用的技能

(1) 多様な生物や生命現象の観察・実験を行うことにより、実証に基づいた自然科学的で客観的な論理性を身につけることができる。

(1) 生物の観察や実験によって、実証に基づいた自然科学的で客観的な論理性を習得できる。

※身近な生物に興味、関心、疑問を持ち（問題発見能力）、解決するための手段と方法を考え、実行できる。

(2) ある生物の観察結果を他の生物の理解に広げられる。

(2) 観察や実験で得られた結果を図式化・モデル化し、提示・発表ができる。

(3) 生物特有の実験誤差、観察誤差を考慮に入れて、観察や実験結果を図式化・モデル化し、提示・発表ができる。

※実験誤差とは個体差、手法・測定機器・測定回数などによる誤差。観察誤差とは観察者・観察回数・観察条件などによる誤差。

3. 態度・志向性

(1) 生命の尊厳や生命倫理について適切に配慮できる。

(1) 生命の尊厳や生命倫理について、生物学的な根拠に基づき適切に配慮できる。

(2) 進展するバイオテクノロジーを理解し、生命倫理と安全性に配慮した判断ができる。

(2) バイオテクノロジーの進展に伴って起こる事象に対し、生命倫理と安全性に配慮した判断ができる。

(3) ヒトの健康の維持・管理や食の安全に配慮できる。

(3) ヒトの健康の維持・管理や食の安全に配慮し、生活できる。

(4) 多様な環境問題を理解し、地球環境の持続的維持に配慮し、生活できる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

(1) 生態系の維持や環境・エネルギー問題などを理解し、地球環境の持続的維持に配慮できる。

(2) 生物学で学んだ知識・技術・態度を統合し、豊かな社会の構築に配慮できる。

(1) 生物学で学んだ統合的な理解から、自然との共存による豊かな社会の構築について提案・行動できる。

※例えば、身近な生活の場で自然環境の保全、健康維持などに関して、知識や情報を習得し、普及などの活動ができる。

IV. 次回までの課題

学士力の最終版を今回の委員会でまとめたため、次回以降は3回程度の委員会を開催し、コアカリキュラムのイメージと評価方法について検討していくことを確認した。そのため、次回委員会までの課題として、コアカリイメージのメモを各委員が作成することとなった。

なお、本委員会で作成するコアカリイメージについては、本格的な詳細なコアカリではなく、カリキュラムの範囲と水準を示すまでのものとすることを確認した。

V. 次回委員会

次回委員会は、8月24日(月)14:00~16:00に当協会事務局にて開催し、コアカリイメージを作成していくことになった。